検査技術科学専攻の先輩であり、企業に就職された中村美紗都さん、宮原杏奈さん、豊澤大地さん、一戸理沙さん、坪井洸樹さん、加藤一郎さん、鈴木友菜さんにインタビューさせていただきました。
インタビュー内容は以下の順で記載しています。
①仕事内容と役割
②企業に就職したきっかけ
③就活において病院就職と企業就職で異なる点
④受験生へのメッセージ

中村美紗都さん　　臨床開発

（2017 年修士課程終了）

①役割:治験モニター(CRA)
仕事内容: 治験(※)を実施する医療機関の選定/体制整備、治験実施のための申請手続き、治験データの収集、治験に参加されている患者様の状況確認(カルテチェック、医師や医療スタッフとの面談など)
(※)治験: 国から新規医薬品/医療機器の製造販売を承認してもらうために実施する臨床試験のこと。治験を実施する過程を臨床開発(開発)と呼びます。

②大学院の修士課程で、臨床開発中の薬剤について研究しているうちに興味をもったため。大学院ではガン細胞を対象とした研究(基礎研究)を実施しており、実際の病院の現場で新たな医薬品候補がどのような過程を経て薬として育っていくのか知りたいと思った。また、臨床開発の過程では基礎研究のデータも重要なため、自分が学んできたことも役立てられると考えた。
人と交わる機会の多い職種に就きたいと考えており、営業職の要素もある治験モニターが合っていると感じたため。

③私が就活を行なった当時は、病院と比べて、企業就活の方が随分早くに開始されていました。そのため、**早めの準備**が必要になってくるかもしれません。 また、「企業就職」と一言でいっても色んな業種/会社があるため、自分の就きたい職業/企業の絞り込みに悩みました。**自己分析**を繰り返し行なって、自分が何をしたいか探っていく必要があると思います。

④検査技術専攻を受験される皆さんは、ある程度検査技師になるという想いが固まっていることと思います。しかし、**進学後の将来の選択肢は恐らく皆さんが今知り得ている以上に広い**です(私は高校時代に臨床開発についてまったく知りませんでした)。ぜひ、**沢山の可能性**があることを希望に受験勉強に励むとともに、入学後は検査技師以外の選択肢についてもアンテナを張ってみて頂けると良いかと思います。

宮原杏奈さん　　国立研究開発法人産業技術総合研究所

（2017 年医学系研究科保健学専攻卒）

①共同研究契約締結に向けた所内関係部署及び相手先機関との調整を行っていました。「より良い商品を開発したいけど、どうしたら良いのかわからない」、「新しく開発した物質を使用して製品化に取り組みたいけど、組織内の力のみでは製品化に繋げられる研究は難しそうだ」など、企業等や産総研内のみでの研究開発では解決策がなかなか見つからない時もあります。そんな時、双方がタッグを組むことにより研究が進むことがわかれば、共同研究を行う場合があります。双方の研究者間で研究スタート！といきたいところですが、研究を始める前にルールを決め、決めたことを証拠として残さなければなりません。証拠がなければ、共同研究期間中に問題が発生した場合、収集がつかなくなる可能性があるからです。共同研究開始前に予め双方においてルールの内容を調整し、それを証拠、すなわち契約書としてまとめていました。 共同研究相手先の契約担当者及び所内研究代表者と密にコミュニケーションをとることはもちろんのこと、契約条項に関して、必要があれば所内関係部署（例えば、知財部や法務部）とも連携をとり、仕事を進めていきます。 現在は、産総研を一度離れ、違う組織に出向しており、ここで記載している内容とは全く違う業務に取り組んでいます。総合職として就職しているため、2～3 年毎にジョブローテーションがあり、仕事内容が変わります。

②大学院へ進学し、様々なことを経験して、自分自身が本当に何をやりたいのかを考える時間を持てたことが、企業へ就職するという道を拓いてくれたと思っています。 せっかく大学院へ進学し、勉強・研究をしてきたのだから、それを生かせるような企業の技術職や研究職、もしくは総合職に就くことも選択肢として考えてみたい、そんな想いで就職活動を始めました。就職活動において、様々な企業を知り、職種を知り、面接や自己分析を重ねていく中で、どのような形で社会貢献をしていきたいか、楽しいと思えるか、自分自身の性格に合っているか等の切り口で考えた時、臨床検査技師として病院へ就職するよりも、企業の総合職として就職する方が自分に合っていると思い、就職活動を行っていました。

③病院での就職活動をしたことがないため正確なことは言えないですが、就職活動時期と選考フローではないでしょうか。 企業の就職活動は、早ければ、例えば大学 3 年、もしくは大学院 1 年の夏のインターンシップから始まります。インターンシップで企業の方に良い意味で目をつけていただければ、早期選考の流れに乗ることができます。正式に就職活動がスタートするのは、大学 3 年、もしくは大学院 1 年の 3 月からであり、合同説明会に参加したり、エントリーシートの作成に取りかかったりします。その後、エントリーシートの選考を通過すれば、面接に進むことができます。面接は一般的には 3 回～4 回行い、早ければ、4 月下旬頃から内定が出始めます。

④まずは、最後まで記事をお読みいただき、ありがとうございます。受験生の皆さんにとって、社会人になることはまだまだ先のことですし、臨床検査技師になりたいと思っている方にとっては、少し難しい内容だったかもしれません。 私が受験生の皆さんにお伝えしたいこと。それは、**目標をしっかり持って**勉強や部活に取り組み、今を楽しんで欲しいということです。コロナ禍の中での受験は、制限も多く、うまくいかないこともきっと多いと思います。それでも、目標を大きく掲げてそれに取り組み、達成できなかったとしても**頑張ったという事実は、大きな自信**に繋がります。目標を掲げて努力することは、大学に入っても、就職活動の時も、社会人になっても重要なことだと私は思います。強い気持ちを持ち、受験を頑張って乗り越えてください！そして、就職先として、臨床検査技師という道のみならず、「産総研」という研究所があり、そこで総合職として働くこともできる、ということも覚えてもらえたら嬉しいです。

豊澤大地さん　　株式会社エスアールエル

（2021 年大学院修士課程卒）

①臨床検査技師

②大学に入学した時は臨床検査技師は病院に所属するものだと思っていたが、特殊検査など受託検査に強い臨床検査の企業があることを知った。1 つの病院に勤務するのに比べより大きな規模で様々な経験が出来ると思い、臨床検査業界の最大手を選び入社した。

③企業就職のライバルは医療系のみならず理系学部全般であるため、良い刺激になる。また企業就職は病院就職より早い時期に選考があるため、もし企業への就活で満足いかなくても病院に向けた就活に切り替えることができる。

④臨床検査はこのコロナ禍において非常に大きな役割を果たしているでしょう。検査技術科学専攻は国家資格取得が主な目標ですが、それまでに培ったスキルを生かす**選択肢は多岐にわたります**。大変な時期だとは思いますが、医療貢献を志すあなたの入学を応援しています!!!

(お名前は非公開とさせていただきます)　　医療系広告代理店

（2017 年大学院医科学専攻修士課程修了）

①医療用医薬品に関連するプロモーション資材の作成

②新卒時の就職活動では、臨床開発の仕事を希望して医薬品開発に携わる企業（CRO）に入社しました。そこでの経験から、情報を伝える仕事の方が自分に合っていると思い転職したのが今の会社です。

③病院就職のための活動をしたことがないので就活において異なる点は分かりません。想像できる範囲で答えるならば企業就職の方が選考フローが多いという点でしょうか。

④それぞれの専攻によって、卒業後の就職先が限定されるイメージがあるかもしれませんが、案外**選択肢はたくさん**あります。将来を心配しすぎず、ぜひ自分が興味のある学問を勉強してください。

坪井洸樹さん　製薬企業（診断薬・医療機器販売）

（2019 年保健学博士後期課程修了）

①主に医療機器の保守に携わり、設置、点検、修理を担当しています。

②検査技術や新たな医療機器がどのようにして医療を変えていくのかを見てみたかったというのが根底にありました。教科書で見てきた検査の歴史の変遷を間近で見てみたかった、できれば自分も関わってみたかったのです。また、働き方として、全国の様々な医療機関に赴くことで見えることへの期待や、実力や行動が評価につながりやすい点にも魅力を感じたため、企業に就職しようと思いました。

③企業への就活を通して私が感じた点を述べます。
・就職活動の武器として、検査技師等の免許が必要では無いです。免許よりも、**大学で学んだ知識を企業においてどう生かせるか**のアピールが必要となります。
・就活生の母集団が全く違います。1つの企業でも1次選考へ数千人以上の応募があり、文系理系、専攻も最終学歴も全く異なる人が選考に集まります。
・実際に働き始めてからも、バックグラウンドが全く異なる人々との仕事が求められるため、柔軟な思考を持ち、多様性のある中でうまくできる人が求められます。
・専門知識という武器を持ちながらも、それが全てでは無く、様々な役割をになうことが期待されます。

④まずは受験勉強頑張ってください。内容もさることながら、ここで何処まで頑張れるか？が大切です。夢や目標を持ったときに、どれだけ自分ができるか？を問われています。くれぐれも受験で燃え尽きないように！**入学してからが本番**です。
　いつ何処でどんな出会いがあるかわかりません。私が企業へ行きたいと思ったのも、とある講義に出席したことがきっかけだったりします。**自分で行動**して様々なチャンスを掴んでください。
　大学生活を振り返ってみて、**柔軟であること**、人の話を聞けること、自分で考えられること、人に話せることが、大学生活における成長の鍵だと思いました。

加藤一郎さん　　医薬品メーカー

（2011 年大学院保健学専攻内分泌応用医科学分野終了）

①MR 自社医薬品情報を医師、薬剤師等へ情報提供する。

②漠然と検査技師として働くか企業に就職するかを考えたときに企業のほうに魅力を感じたから。

③病院への就職活動をしていないのでわからないが企業就職では数多くの面接等があるためスケジュール管理は大変だった。またなぜ検査技師として就職しないのかと必ずと言っていいほど聞かれた。

④大学卒業後国家試験資格を有することができるのでその仕事に就くことはもちろんだし、その資格に関連した企業または自身の興味のある企業への就職というのもあるので**幅広く考え**、就職先を検討してみるのは非常に良いことだと思います。

鈴木友菜さん　　日本赤十字社東北ブロック血液センター

（2021 年医学系研究科保健学専攻修士課程）

①血液センターでは、血液を提供してくださる方を募集して、その血液を採取し、治療を必要とする患者さんに安全・安心な血液製剤を安定供給できるよう、様々な職種の方々が連携してお仕事をしています。その中で、私は検査課に所属しており、ドナーさんの HLA 型(ヒト白血球型抗原)を検査するグループで働いています。検査課の中には、血液型検査、白血球型検査、感染症検査や生化学検査など様々な検査があり、どれをとっても安全・安心な血液製剤を製造するうえで重要な役割を担っています。

②企業に就職したい！と思って今の会社に就職したというよりは、臨床検査技師として血液事業に貢献したいと考えて、血液センターへの就職を志望しました。 直接患者さんと関わることはありませんが、ドナーさんが、人を助けたいという気持ちから顔も知らない誰かのために献血してくださった血液を患者さんのもとへと繋ぐ、人と人の架け橋とも呼べるこの仕事に魅力を感じました。

③どちらにおいても、就活において、どうしてその病院、または企業に就職したいのか、という**自分の気持ちや考え**を最大限先方に伝えることが大切であるという点については変わらないと思います。もちろん、面接や試験においては時期や内容に大きく違いがありますので、特に企業の場合には就活サイトや大学の先輩などを通して早めの時期から情報収集をするといいと思います。私のように、**病院以外でも臨床検査技師として働ける**場所は数多くあるので、興味のある方は調べてみてくださいね。

④新型コロナウイルスの影響下で、人と会う機会が減り、様々なイベントも中止になってしまったりと、大変な日々を過ごしていることと思います。マイナスの面が多いこととは思いますが、おうち時間が増えたことによる**プラス面**にも目を向けてみてください。オンラインでも様々なことを学ぶ機会は得られますし、そこには**たくさんの発見**があるはずです。 この文章を読んで、臨床検査技師という職種に少しでも興味を持っていただけたら嬉しいです。受験頑張ってください！

いかがでしょうか。
検査専攻卒業後は病院で臨床検査技師として働くだけでなく、企業への就職という道を考えることもできます。少しでも検査専攻に興味を持ってくれたら嬉しいです。